

もくじ

まえがき

忘れられない優しい笑顔

日刊スポーツ新聞社編集局野球部デスク 鳥谷越 直子

プロローグ 車椅子からの再出発

第一章 心のキャッチボールへの道

野球との出会い―そして指導者へ

前橋工との死闘―決勝で3連敗

センバツの初戦敗退―基礎基本の大切さ再認識

生涯最強のチームと悲劇

心のキャッチボール―個が確立したチームプレーへ

学校の内外に良き理解者を

挨拶は心のキャッチボール

第二章 かく戦った

コンバート―適材適所で

スクイズ―快感と苦汁

オフで差をつける―意欲を持たせる工夫を

番狂わせは自ら起こせ

トーナメントの戦い方

不振脱出法

捕手を育てよ

部訓・鉄則

バンド・エンドランの使い分け

指導者の心構え―理念・信念・執念

第三章 戦術の進化―さらなる高みへ

過去・現在・未来―三強か公立の逆襲か

戦術の歴史―金属バットのもたらした変化

攻撃的守備―平成二十五年、前橋育英の全国制覇

機動破壊―平成二十六年、夏の甲子園

桐生一、平成二十六年、センバツ

3強に打つ手はないか

第四章 夢を次世代に―将来の高校野球

少子化時代の高校野球

タイブレークの是非

センバツはドリームチームで

OB連盟への期待―地域との橋渡し役に

第五章 私の観た高校野球（平成編）

心に残る選手たち

平成二十七年、センバツを観る

第六章 斎藤章児の目

思い出に残る試合

上毛新聞から

高校野球 群馬の実力は「関東一」

目標を立てて 野球指導は男のロマン

あとがき